

勝山市立中学校再編について

—これまでの経緯および検討内容—

- (1) 3 中学校を 1 校に統合
- (2) 新中学校を勝山高校の敷地内に建設
- (3) 特色ある教育
- (4) 新しい施設・設備

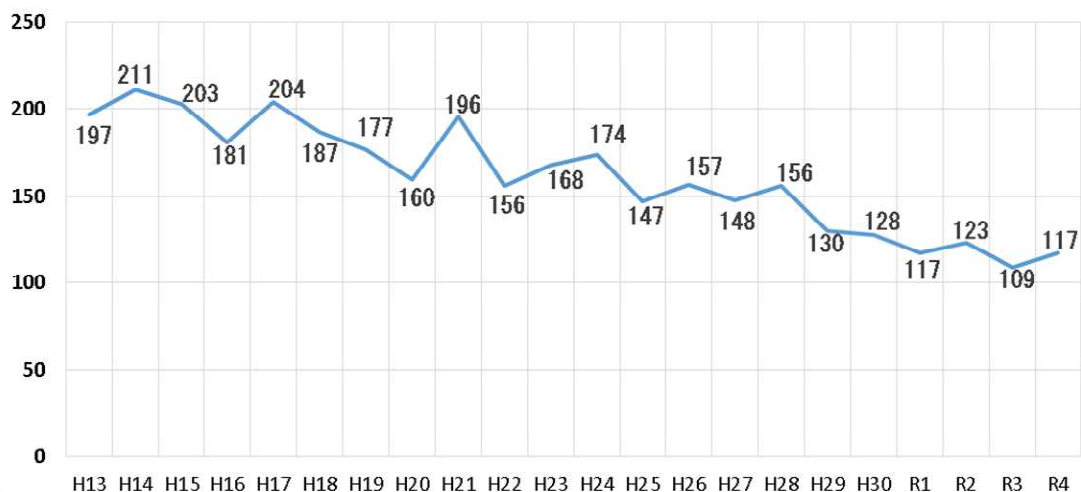
これまでの学校再編検討の主な経緯

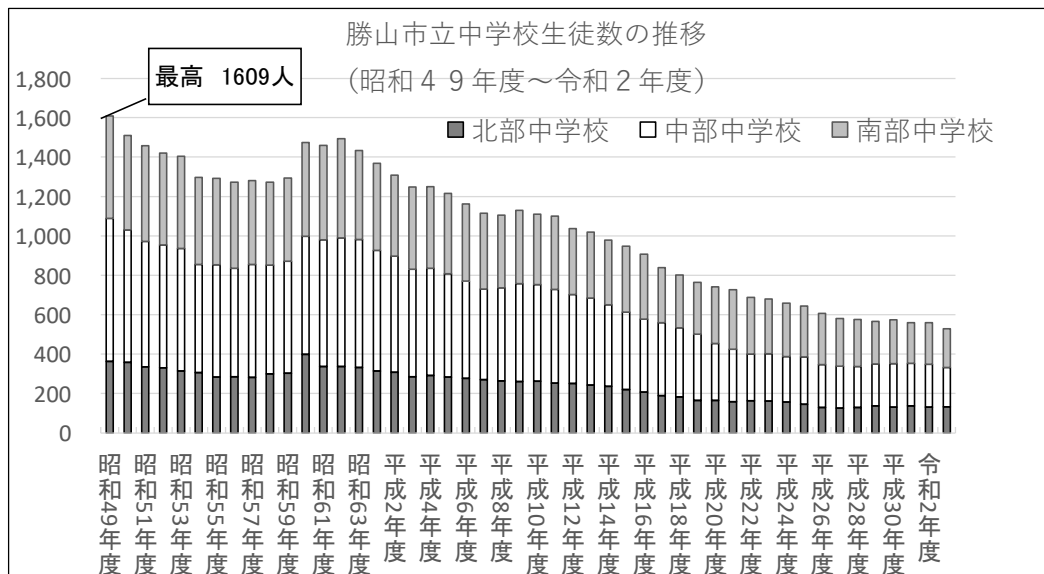
- H16～18：勝山市の小中学校の望ましいあり方検討委員会
「小学校は3校に、中学校は1学年4学級以上の学校に統合することが望ましい」
- H21～22：市内10地区で座談会を開催。
「小学校を3校に、中学校を1校に再編」する素案を提示
↓
「小学校は保護者・地域住民の意思を尊重して対応することとし、中学校の再編を先行したい」とする再検討案を提示
- H23～24：PTA連合会、各校区幼小中保護者、教職員等との意見交換を実施
- H25：市から「中学校再編は、H36～37年度を目途とし、H30年度に中学校再編検討委員会を立ち上げ、H31年度中に方針の結論を得る」との方針を提示

これまでの学校再編検討の主な経緯

- R1：勝山市立中学校再編検討委員会の答申
「統合中学校の場所を勝山高校との併設とし、中高連携を進めるべき」
- R4. 3月：勝山市立中学校再編計画 策定
「市立3中学校を1校に再編統合する」
「県立勝山高校敷地内に新中学校を建設し、中高連携を進める」
- R4. 4月：勝山市立中学校再編準備委員会 設置
- R5. 3月：勝山市立中学校建設基本計画 策定

勝山市の出生数の推移（H13～R4）





子どもたちが生きていく時代

A Iなどの情報技術の急速な発展に伴い、生活や社会が加速度的に変化する「予測困難な時代」



- ・ 少子化が進む勝山で、どのような教育を行うか
- ・ 令和の時代の教育に求められることをどのように実現していくか

令和の時代の教育の主なキーワード

- 生徒が自ら学びに向かう主体性の育成
- 課題解決能力、論理的思考力
探究的な学習や体験活動等を通して、知識技能の活用力を育成
- 社会性、コミュニケーション能力、情報発信力
- 多様な他者との共生や協働

学校規模が小さくなると・・・

きめの細かい丁寧な教育ができる一方で

- 生徒の人間関係の固定化（クラス替えできず）
- 集団活動、協働的な学習の制約（多様性・協働性が不十分）
- 部活動の選択肢の減少（チームが組めない）
- バランスのよい教員配置が困難（専科の教員が不在）

○中学校は、大人へと成長していく過程の中で、心身共に大きく成長し、
しっかりした社会性や人間性を身に付けていくべき大事な時期

○多様な生徒がいる集団の中で切磋琢磨しながら、学習や体験活動に取り組む
環境を提供することが必要

新中学校が目指す教育 —新中学校を勝山の教育の中核として—

- ・誕生から18歳成人まで市民総がかりで切れ目なく支援し、最大限の教育効果を上げる新しい教育システムを構築していくことが必要



- ・県内有数規模のジオアリーナや長山公園グラウンドを教育施設としても活用
- ・新中学校の新校舎を勝山高校の敷地内に建設



中高生が共に学び交流する、新たな文教ゾーンを整備

新中学校が目指す教育 —新中学校を勝山の教育の中核として—

今後の教育では、多様な人々との交流・協働による学習が重要であることから、新たな教育環境の中で、新中学校と勝山高校に連携型中高一貫教育を導入
中高が近接することで、教育の効果を向上



地域社会の中で課題を見だし、各教科等で学んだことを活用して主体的に考え、最適解を生み出す活動などを通して、思考力、判断力、表現力などの能力を育成

新中学校が目指す教育 —新中学校を勝山の教育の中核として—

- 本県独自の規準（1学級32人）によって1学年5学級程度の適正規模でスタート
- 一人ひとりを大切にするきめの細かい教育の推進
- 様々な集団活動や他者との協働を通して、互いに切磋琢磨し、豊かな情操や規範意識、自己肯定感や他者への思いやり、社会性やコミュニケーションを通じた人間関係を築く力、困難を乗り越えものごとを成し遂げる力などを育成
- 勝山市の教育の中核として各小学校や隣接する特別支援学校とも連携

新中学校が目指す学校像

「新しい時代に生きる力を育む学校」

自ら考え、他者と協働しながら課題を解決していく主体的な学びを支援する学校

「夢や希望の実現を支援する学校」

個性や能力を伸ばし、目標に向かって自ら粘り強く挑戦することを支援する学校

「ふるさと勝山への誇りと愛着を育む学校」

地域とつながり、豊富な体験活動を通じたふるさと勝山の学びを支援する学校

「安全・安心で、保護者や地域から信頼される学校」

互いに認め合い尊重し合って、生き生きと学校生活を送ることを支援する学校

新中学校が目指す生徒像 4つのC

「何事にも自信をもって粘り強く挑戦し学び続ける生徒」 Challenge

「多様な他者と協働し主体的に考え行動する生徒」 Collaboration

「自分と他者のよさを認め尊重し関わり合う生徒」 Communication

「自分らしい生き方を考え将来をデザインする生徒」 Career

連携型中高一貫教育とは

○市町立中学校と地元の県立高校の間で連携教育を実施する制度

県内では「金津中・芦原中と金津高校」「越前町立中と丹生高校」

「三方中・美浜中・上中中と美方高校」の3地域で実施

※高志中高は併設型。福井中高、北陸中高、敦賀気比中高も中高一貫教育

○中学・高校の授業や教育活動は、それぞれ独自に実施

教育効果の高い教育活動について連携を実施

※高校教員によるTT授業、探究学習、生徒会活動、部活動や学校行事など

○中学校卒業後の進路選択は自由

勝山高校を目指す生徒には簡便な入試による選抜などを検討

特色ある教育内容

探究的な学習（学んだことを教科横断的に活用する学習）

- ふるさと勝山の自然、文化、歴史、産業、食などをテーマに探究学習を実施
- 勝山市や地域の活動等に参画したり、中高生合同での取り組みを実施
 - ※学習成果は、発表会、市長への提言、HP等により積極的に情報発信
- 高校の探究学習に触れることで、探究スキルを向上

特色ある教育内容

ライフデザインタイム（キャリア教育）

- 自分らしい生き方や将来の目標を考える学習を生徒が主体的に実施
- 地域の方々や企業、大学などの外部人材による授業や、商・工・農・福祉・医療等の仕事を学ぶ授業、職場体験等を実施し、進路選択の視野を拡大
- 大学進学等の進路について、中学生が、高校の進路指導に触れる機会や高校生・大学生と語る会の開催などを通して学び、進路に向けた意識を向上

特色ある教育内容

生徒主体で進める学校行事・特別活動・部活動

- 体育祭や文化祭、修学旅行、生徒会活動、部活動などで、中学生が自ら企画・運営する活動を推進し、
生徒の主体性や、実行力などを向上
- 地域の方々や高校生等と様々な活動で連携・交流することを通して、社会性やコミュニケーション能力を向上
- 合同練習が可能な部活動では、高校レベルに触れてスキルを向上し生徒主体の活動を実践

特色ある教育内容

高校教員によるサポート授業

- 中学3年次の数学と英語の授業に高校教員がチームティーチングで参加
 - ・3年生全クラスで実施
 - ・高校での学習に見通しを持ち、学習意欲が向上するよう中学校の学びと高校での学びを接続する指導を実施
 - ・理解度に応じて高校レベルの問題にも取り組み、授業のほか個別指導で学力を強化
- 中高の学習指導の相互理解により、高校入学後の学習指導を円滑に実施

特色ある教育内容

ＩＣＴ環境の充実と効果的活用

- 校内のＩＣＴ環境を整備し、小グループでのプレゼンテーションなど中高の生徒が発表し合う機会を充実して、表現力や情報発信力を向上
- 学習効果の高いデジタル教材を導入し、楽しく分かる授業を進め、主体的な学びを支援
- オンラインで国内外の学校・企業などの多様な人々と交流し、英語の学びや探究学習、キャリア教育等を充実

勝山高校周辺





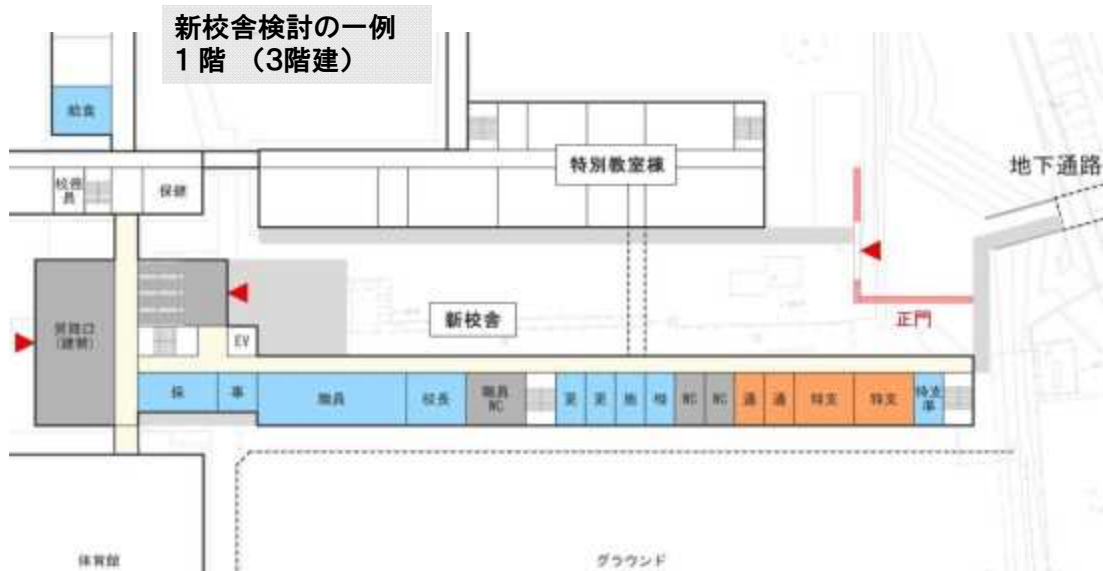
新校舎の諸室等について

○新中学校の校舎はグラウンド北側に建設

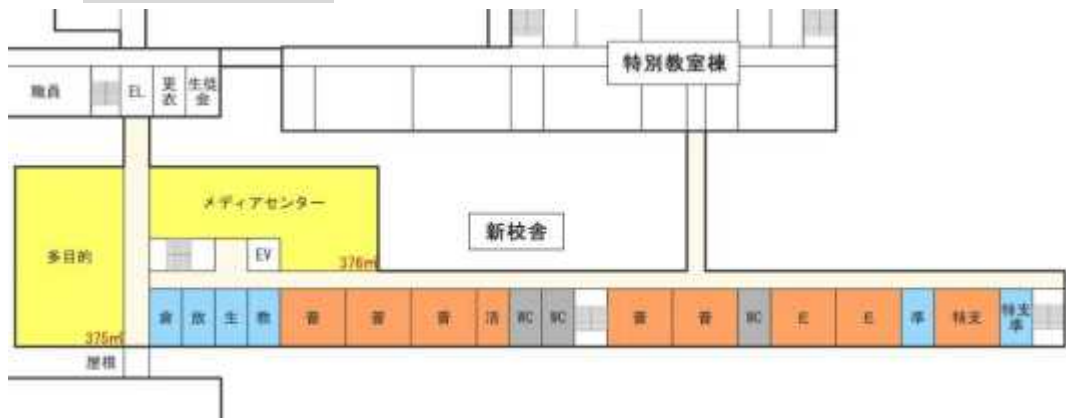
- ・ 渡り廊下で高校と接続
- ・ 職員室など教職員の諸室は中学校校舎に設置
- ・ 相談室や通級指導室などの教室は必要数を設置
- ・ 多目的室や図書室(メディアセンター)など、多様な学習スペースを充実

○理科室や技術室は、中学校の教室として、音楽室や美術室、家庭科室は、中高共用として高校の特別教棟に設置（中高の授業時間を踏まえ、十分に共用可能）

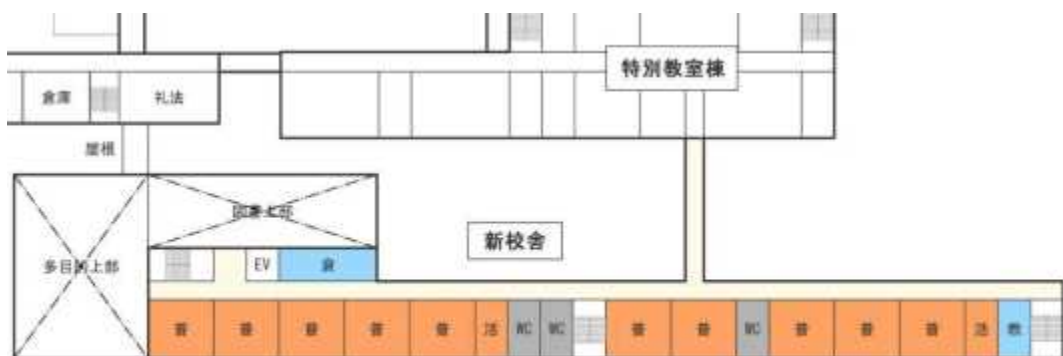
- 体育館や特別教棟の諸室は、中学校が使用する際は基本的に単独で使用
 - ・高校が使用する合間を縫って使用したり、高校と同時に使用することは前提としていない
 - ・県内有数のジオアリーナや長山グラウンドを、授業や部活動等で使用し、教育環境は向上
 - ※勝高の第1・第2体育館は、3中学校の体育館より広い
- 勝山高校の特別教棟・第一体育館は、県がリノベーションを計画しており、リニューアルされた環境で授業を実施



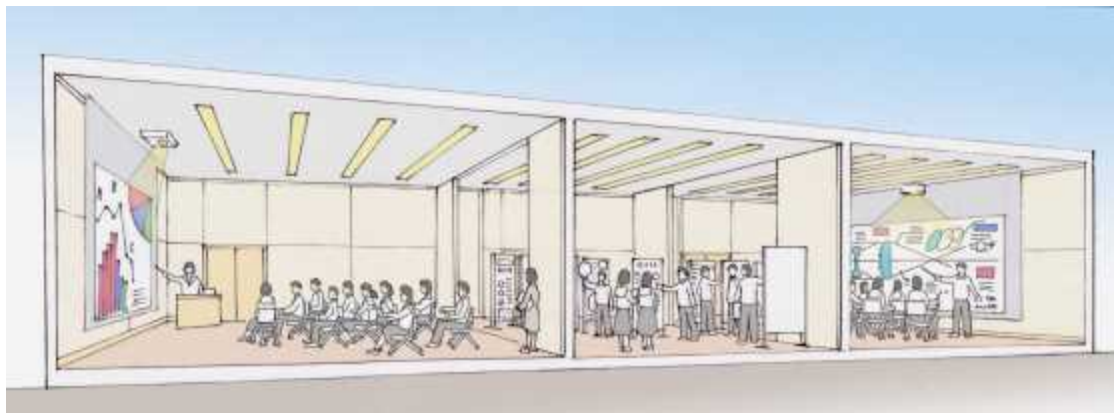
新校舎検討の一例
2階（3階建）



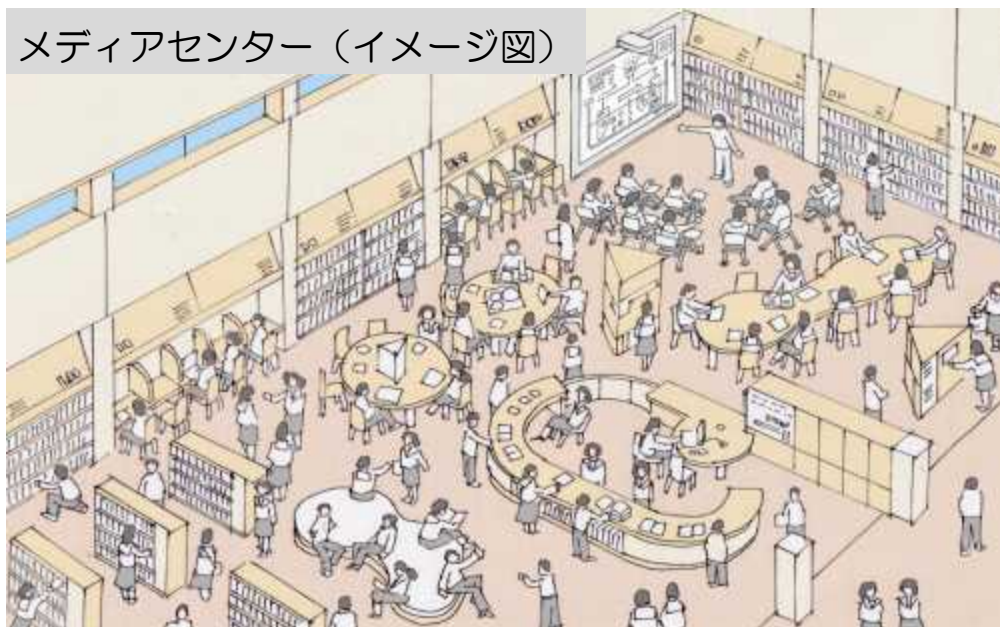
新校舎検討の一例
3階（3階建）



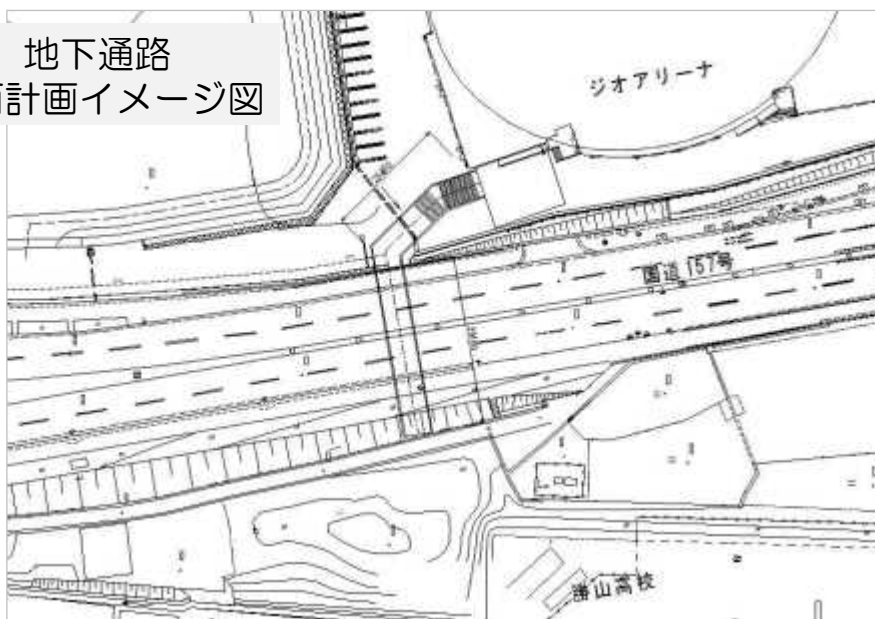
多目的室（イメージ図）



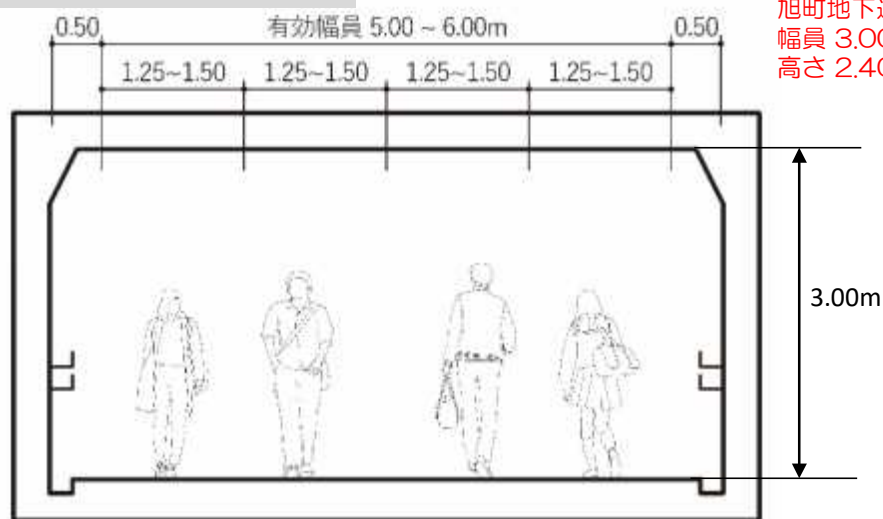
メディアセンター（イメージ図）



地下通路
平面計画イメージ図



断面計画イメージ図



地下通路

- 上足ラインと下足ラインを設け、内履きでの移動も可能
- 中学校校舎からジオアリーナへの移動時間は3分台
- スクールバス乗降場所に地下通路の出入口を設置
- 通路に浸水する可能性も考慮し、浸水防止用設備（止水板等）の整備を検討
- 防犯監視システム（防犯カメラや赤外線センサー、インターホン等の防犯設備）を設置するほか、防犯ベル・ブザーや非常押しボタン等を適切な場所に設置を検討
- 機械警備の設置だけでなく、警察等の関係機関や各種団体と連携

部活動

- 今後、新中学校の設置部活動を検討
- 学校の体育館、グラウンドのほか、ジオアリーナ、長山グラウンド等を使用
※中学・高校が同時に単独で活動できるスペースを確保
- ジオアリーナを活用する団体と調整
3中学校の跡地（体育館、グラウンド）の利用を検討

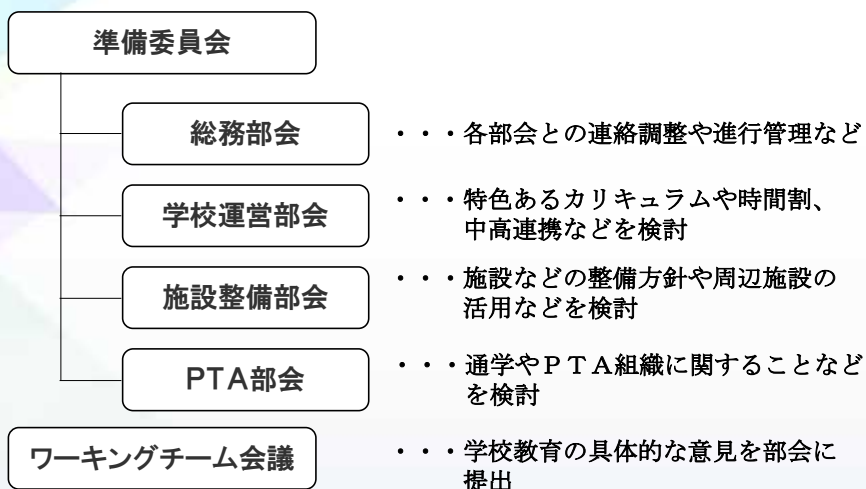
スクールバス（直行方式による運行方法、運行形態等を検討中）

（中学生はR9年度の生徒数、高校生はR6～R8年度の中学生の60%が進学すると想定）

検討中のルート(案) 各バス停の中で2・3カ所停車を想定	
【①北郷線】	
坂東島→伊知地→東野→下森川→上森川→志比原→新町→檜曾谷→中清水→西妙金島→ジオ（約15分）	
【②鹿谷線】	
矢戸口→西遅羽口→東遅羽口→北西俣→西光寺→本郷→杉俣→保田→志田→免坂→出村→妙金島→ジオ（約25分）	
【③野向・荒土線】	
横倉→北野津又→龍谷→竹林→布市→清水島→北新在家→松田→田名部→ジオ（約15分）	
【④荒土線】	
新道→西ヶ原→戸倉→境→細野口→別所→北宮地→伊波→堀名→松ヶ崎→新保→ジオ（約15分）	
【⑤野向・北谷線】	
聖丸→深谷→牛ヶ谷→薬師神谷→栃神谷→暮見→ジオ（約15分）	
【⑥猪野瀬・遅羽線】	
西高島→若猪野→猪野口→下荒井→崎崎→新道→大袋→北山→蓬生→中島→ジオ（約15分）	
【⑦平泉寺線】	（約25分）
池ヶ原→小矢谷→大矢谷→上野→岩ヶ野→壁倉→経塚→大渡→笹尾→赤尾→神野→平泉寺→岡横江→高島→ジオ	

スクールバス運行の利便性を向上し、保護者送迎を減らすことを検討

勝山市立中学校再編準備委員会



新中学校 建設スケジュール

